

Steel 鉄の点景 Landscape



▲北海道神宮第一鳥居

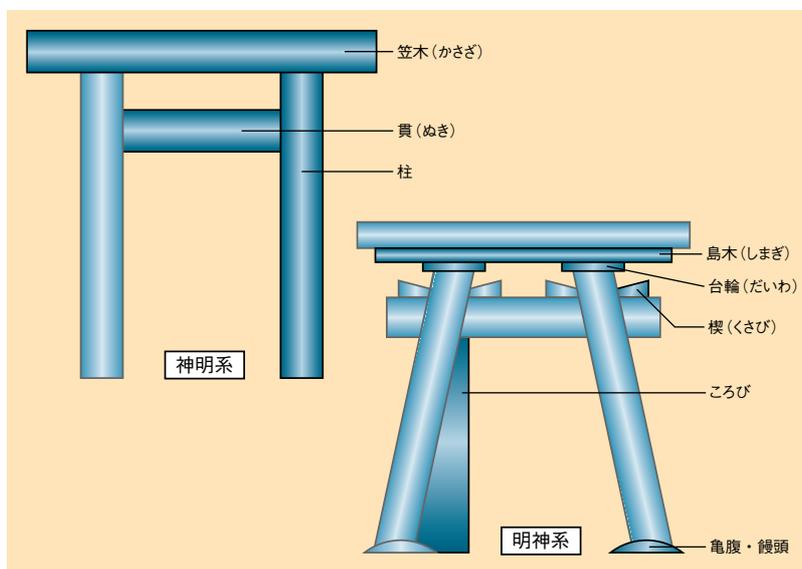
▲熊野本宮大社の大鳥居

鳥居

鳥居の形

神を奉る神社と人間の世界との境を示す、神聖な入り口である「鳥居」。その起源は、天照大御神（あまてらすおおみかみ）の岩戸隠れの際に、鶏を止まり木にとまらせて鳴かせたところ大御神が岩戸から出てこられたことに由来する。これ以降、神前には鶏の止まり木をつくるようになり、それが鳥居になったと伝えられるが、「通り入る」や「鶏居」という言葉の転じたものが語源であるとされている。

鳥居は、「二本の柱」、「柱の上に乗せた水平な笠木（かさぎ）」および「笠木の下で水平な柱の貫（ぬぎ）」から構成されている（図参照）。



これらの柱、笠木および貫の形や組み合わせにより、鳥居には様々な種類があり時代や地域によって呼称が異なる。正確には数えられないが、60種類以上に分類できるという。大別すると、直線的な円柱を用いた神明系と笠木の下に島木と台輪(だいわ)をあしらった明神系(島木系)の2種類に分類される。また、三本の柱からなる三足鳥居など、単純に分類できない珍種も存在する。

鳥居の素材も実に様々である。元来は檜や杉を用いた木製のものが主流であったが、花崗岩や玄武岩を使用した石製のものが現れ、鉄製、銅製、コンクリート製のものまで出現している。最近では、廉価な樹脂製のものが企業・個人向けとして人気を集めつつある。

鉄の鳥居

全体から見れば少数ではあるが、全国各地に点在する鉄製の鳥居の一部を紹介する。

■杉森神社(福岡県北九州市)

初代の鳥居は、15世紀後半に建造された。現在のものは、高さが2.5mであり、小倉の鑄工の釜田曾介と藤原正次が1893年に製造している。

■横峰寺(愛媛県小松町)

四国巡礼60番の横峰寺の奥の院「星の森」に静かに鉄の鳥居が立っている。詳しいことは分かっていないが、その背後に神々しい石鎚山がそびえており、これを奉ったものと言われている。

■靖国神社(東京都千代田区)

大鳥居は1921年に建立され、供出した後、1974年に再建されている。直径2.5mのコンクリート製の円柱を厚さ12mm



▲靖国神社の大鳥居

の耐候性鋼で覆っている。高さは25mであるが、神社の資料によると千年以上はもつといわれている。

■熊野本宮大社(和歌山県本宮町)

2000年5月に建造された高さ37mの日本最大の鳥居であり(以前は奈良県桜井市の大神神社にある高さ32.2mのものが最大であった)、耐候性鋼が用いられている。

*詳しくは本誌342頁参照。

■北海道神宮(北海道札幌市)

現在の第一鳥居は1968年に建造され、高さが19m、笠木の長さが27m、円柱の直径が1.9mであり、耐候性鋼が使用されている。

以上の事例のように、鉄製の鳥居は、鉄鋼技術の発達とともに近年多く建造されるようになってきた。そうした中で、橋梁を中心として発達してきている耐候性鋼は、鉄製鳥居の長期的な見栄えやライフサイクルコストなどの視点から、その建造には今後とも有力な材料となるだろう。

[取材協力・写真提供:熊野本宮大社、北海道神宮、靖国神社]

解説記事 カラー図

新しい視点から見た
電磁現象非破壊評価技術

榎園正人

(本文は348頁より掲載しております)

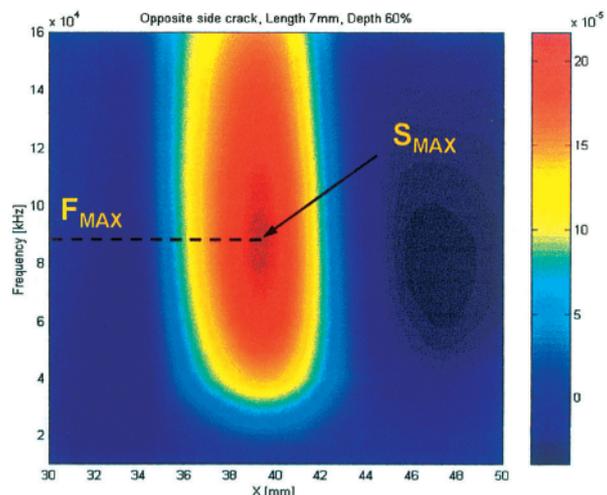


図8 スペクトログラム